

# 郷土文化財紹介

## 石造物シリーズ

### ＜明治の3恩人を讃える碑＞

坂下神社境内左下方に、明治時代の坂下を支え発展に尽くされた3人の碑があります。曾我五郎十郎翁の碑、石原貫一先生の碑、土岐正徳村長の碑です。



↑ 顕彰碑など立ち並ぶ坂下神社境内南面

### ＜曾我五郎十郎翁彰功碑＞

曾我五郎十郎翁は、天保元(1830)年下伊那郡林村に片桐八郎右衛門の4男として生を受け、縁あって坂下村の曾我家へ養子に入られました。幕末の慶応年間(1865~1868)に叔父にあたる曾我伊助より庄屋職を引き継ぎます。明治の改革が始まり大変に難しいときの舵取りを任されたこととなります。

明治となり庄屋職改め名主職となりますが、矢継ぎ早に神仏分離令、神葬祭



↑ 曾我五郎十郎翁彰功碑  
玄昌石(仙台石)  
碑高216cm 幅76cm

への移行、神社合祀、戸籍作成などの難題が上から下りてきました。身銭を切りにわか作りの役所を設け役人を配置し、古文書廃棄作業と新しい記録諸留作成や苗木藩庁との諸連絡と激務であったと思われます。一つ一つを間違いなく治めながら、坂下村の将来について模索されていたのではないのでしょうか。高峯山購入の嘆願書も提出し私財を投じて購入されました。

こうして慶応4年から明治4年坂下村役場が建てられるまでに坂下村行政の礎を築き上げました。明治5年戸長制度が実施され旧職名がすべて無くなりますが、明治7年坂下村初代戸長石原省三氏に引き継がれるまで翁が戸長職を務められました。その後高峰山を管理し坂下村へ寄贈されることとなりました。

彰功碑は、高峰山から移築された高峰神社と並び翁の功績を讃えています。

### ↓ 曾我五郎十郎翁頌徳碑碑文

曾我翁通称五郎十郎恵那郡坂下村の人也嘗て里正と為り治積あり明治維新の際苗木藩廳御立山と稱する村内の山林を人民に糶賣(せりうり)す翁謂らく山林は村民の依て以て業を得産を立る所而して今之を少数富者の手に委(まか)するは地方永遠の策に非らずと是に於て百方周旋遂に金若干を以て高峯岩須等三百六十五町三段四畝歩の地を買収し悉(ことごと)く之を村有と為せり爾來樹を植ゑ濫材を禁し大に造林の事に勉む本村今日の基本財産ある者皆翁の此峯に基づく今や高齢八十退院優遊世を忘るる者の如し村深く之を徳とし焉(こゝ)に碑を建て翁の功を不朽に傳へんと志來て文を余に乞ふ乃ち其概を記し以て後の人に諗(こゝ)く

明治四十三年夏五

岐阜縣恵那郡長正六位勲五等若林卓爾撰  
石原貫一書  
坂下村坂下区建之

## ＜石原貫一先生頌徳碑＞

石原貫一先生は、明治16年から明治42年まで坂下小学校に教鞭を執られ、多くの生徒を育まれたいへん慕われた教師でした。その徳を讃え建てられたのがこの頌徳碑です。

貫一先生の父親は、石原省三氏で苗木藩改革の中心であった大参事石原正三郎の兄です。苗木藩廳が行った明治3年の改革の一つに日新館とその支校建設があります。支校の1つとして坂下小学校が造られましたが、第2代学校長として省三氏が赴任しました。明治5年戸長制度が確立しますが、曾我五郎十郎翁の後を継ぎ明治7年より坂下村戸長を務められます。

石原父子は苗木から移住され、坂下の教育や行政の礎を築かれた恩人です。



↑石原貫一先生頌徳碑  
玄昌石(仙台石)  
碑高2.7m 幅2.0m 行き1.7m

### ↓石原貫一先生頌徳碑碑文

石原貫一先生ハ元苗木藩士石原省三氏ノ長男ニシテ  
明治十六年六月ヨリ明治四十二季(ねん)迄坂下小學ニ  
教鞭ヲ秉(と)ラレ大正二年七月ヨリ村社坂下神社八幡神社  
神明神社ノ社掌トシテ以テ今日ニ迄(およ)フ  
先生資性温厚篤實其二十優年間教職ニアラセラル  
ルヤ終始一貫玉ノ如キ温容ト慈父ノ如キ愛トヲ以テ  
醇醇(じゅんじゅん)幼童薰化ト後進ノ提擲(ていせい)トニ盡瘁(じんすい)シ給ヒ後神職  
トシテ神ニ仕ヘラルルヤ崇高ナル人格ト圓滿ナル徳  
操トヲ以テ隱約(いんやく)ノ間二人ヲ導キ給フ里民擧ゲテ其徳ヲ  
稱(たたえ)ヘ渴仰(かつぎよう)欽慕セサルハナシ先生ノ如キハ洵(まこと)ニ郷黨(きやうとう)  
ノ精神教化ノ權化ト謂フヘク且一世ノ師表トスヘシ  
茲(こゝ)ニ先生ノ徳ヲ慕ヒ其負荷ヲ感謝スルノ餘リ  
頌徳碑一本ヲ永ク後日此ニ貽(のこ)サントス  
官幣大社八坂神社宮司品五位勲六等額賀大直篆額  
昭和十年三月十日  
松井宗治郎撰  
松岡 文雄書  
石原先生頌徳会建立

## <土岐正徳村長頌徳碑>

土岐正徳村長の頌徳碑は、坂下神社境内に石原貫一先生頌徳碑と前後して建てられている。明治21年から明治35年まで戸長・村長として坂下の産業の発展に尽力されたました。村長退任後、一人上京、中央線が坂下村を通過するよう私財を投じて運動、山口村通過の計画を覆され、明治42年坂下駅の開設に至りました。この功績は計り知れないものであります。

土岐村長の出自は、旧姓を宮地と言い苗木藩で家老職を務めた家系です。改革の嵐の中で土岐と改姓されました。苗木藩大参事青山直道とは従兄弟同士であったそうです。明治3年苗木県第6区の郷社祠官を務められ、明治4年坂下神社氏子改め札に社掌土岐正徳と署名してみえます。その後石原省三戸長同様坂下に移住され、坂下に深く関わりを持たれたようです。



↑土岐正徳村長頌徳碑  
玄昌石(仙台石)  
碑高210cm 幅90cm 行き100cm

### ↓土岐正徳村長頌徳碑碑文

わが土岐正徳翁は世にも稀なる立派な公人であった又わが坂下町に取ってはかけ替えのない恩人であった明治二十二年八月から同三十五年十二月まで村長の職に在ったが其の間幾多の功績を残している今其の主なるものを挙げれば先づ農村振興の第一策として全村各区に車の通ぜぬ所なくまでに道路を開通した又中津町に通ずる幹線と南北街道との連絡線を完成した次に養蚕改良のために講習所を設立した又雨傘を主とする紙製品工業の発達を図って製紙会社の設立に力を尽くした又人材養成の急務を唱えて実業補習学校を改組拡充した又更らに坂下第一小学校の建設に際しては御料材の払い下げを願ひ出で其の資材によつて隣接には比類なきまでの立派な校舎を建設した此等は皆翁の高い識見と広い視野とによつてなされたものである併し翁の功績中最大のもの恐らく中央線を坂下地内に通過せしめた一事であろう当時一般の人々は鉄道は耕地を損するものとのみ即断した爲に对岸の山口村山内を隧道で通する測量設計にも殆ど無関心であつた翁は独り之を憂いて坂下町百年の大計の爲にこの信念の下に窃かに自己の家什を売つて旅費を調達し何人にも告げず上京して代議士を歴訪議会への請願運動を開始した其の結果遂に当局当初の計画を変更せしめ現在の中央線を通じて現在の坂下駅を設けしめたのであるこれこそは翁の業績中最も特筆大書すべき易行であり同時にわが郷人としては永久の肝銘すべき事である以上は公人としての翁の一面であるが翻つて私人としての翁を顧ればこれ亦廉潔清白貧に処して晏如たる高風の士であつたさればこそ村民の信頼も厚く不幸にして各種争議の起つた場合にも一度翁の調停があれば立どころに円満解決を見たほどである茲にわが坂下町は和年二十八年日本再興の佳辰を卜し町議会の議を経て碑を建て謹んで翁の偉績を顕彰することとした庶(こうねがわ)くは翁の英霊も此によつて慰められることであろうし後日以後は又此によつて永く翁の崇徳を景仰するであらう

昭和二十八年十二月二十日

勝野正男撰

坂下町建之  
松岡文雄書